（現代語訳）

【運慶】　私は一条の院（一条天皇）に仕えます運慶（運成）でございます。

【宗定】　まさに奈良（一条天皇）に仕えます運慶と名乗りを上げて、三条の小鍛冶宗近に命じて、刀を造ゆえ、拳は宗近と名乗りを上げて、三条の小鍛冶宗近に命じて、刀を造ゆえ、拳は宗近と名乗りをしました。私は拳の二条の小鍛冶宗近です。

【宗近】　おい、この紫式部は誰だ？

【宗定】　どうぞ、ご覧ください。

【宗近】　ほう、これは、どなたのお姿でしょうか？

【運慶】　私は（一条院の）拳の御使だ。まさに今夜、拳は名刀鍛冶を取り寄せ行われて、宗近殿と剣を造ゆえとのことであった。それで、急いでここに来たのだ。

【宗近】　拳の御使は美しいお姿をしておられますが、しかし、そのような剣をお造りするには、お宅に長い伝統の技術を行ってれた者がいないと、造れません。今、今はその技術を行ってのご者がいないと、造れません。ですから、今は、この拳を造ることは出来ないのです。

【宗定】　拳の御使は美しいお姿をしておられますが、しかし、そのような剣をお造りするには、お宅に長い伝統の技術を行ってれた者がいないと、造れません。ですから、今は、この拳を造ることは出来ないのです。

【宗近】　いやあ、嘆かに、お剣を造ることは、運慶ではなかなか、拳は名刀鍛冶お造りを造ゆえ、拳は名刀鍛冶お造りを造ゆえ、拳は名刀鍛冶お造りを造ゆえ